

発行者
板野中学校
学習会
編集・文責: 吉成士

いよいよ2学期も残りわずかとなりましたね。私も毎年のことながら、慌ただしい年末を過ごしています。

さて、当然登校してくる日も残り少なくなってきたわけですが、今週の金曜日(20日)に、学習会行事として「解放クリスマス会」が、南公会堂で行われます。そのことを、全校生徒のみなさんにお知らせしておこうと思います。

◎学習会解放クリスマス会「おしんぼ大会」(12月20日16:00~19:30: 板野町南公会堂)

学習会では毎年趣向を凝らしたクリスマス会をしています。今年は「おしんぼ大会」なるものをやります。どんな内容かという、グループを作り、アイデアを出し合いながら、工夫を凝らした料理作りに挑み、その腕前を競うというものです。一見「それと学習会の意義と何の関係があるのか？」という気もしますが、「日頃参加できていない仲間にも気軽に参加できるイベントを！」ということで、企画したわけです。その中で、日頃できてなかった互いのつながりを確かめ合えればと思います。

実はこの前行われた南公会堂祭りで、板中生から「学習会について」と題し、発表がありました。内容は、「小学校時代には学習会にもたくさんの仲間がいたのに、中学生になるとほとんど来なくなってしまった。小学生のときに誓った言葉は何だったのか？いったい何が変わったというのか……？これからも今までの仲間に声をかけながら、学習会の仲間を取り戻していきたい。」という内容のものでした。

同対象地区内外を問わず、まだまだ町民の中の、「差別をなくす」という意識が低いのかもしれません。この意識がもっと高ければ、学習会はもっと活気にあふれたものになっていくように思えます。「身近には差別があると感じられないから何もしない」ではなくて、「身近にある差別に目を向けて、それらをなくすために実行にうつす」というところまで高めることが、最終目標なのかもしれませんね。

ところで、南公会堂祭りで意見発表した板中生がもう一人いました。堂々と、わかりや

すく、また自分のまわりにある現実にまで引き寄せられている内容で、ぜひともみなさんにも目を通していただきたいと思いますので、ごらんになってください。

自分の生きる道

3年

ぼくは、部落差別をなくす解放運動を、高校に行っても、大人になってもしていこうって心に決めています。

中学生としての3年間の間に、ぼくは毎日の生活の中で部落差別に対する知識をたくさん身につけました。そして、差別があることでみんながしんどい思いしている。つらい思いするのは被差別部落に生まれた人間だけじゃない。現実的には、部落に生まれた人間だけがつらい思いしているように見えるかもしれないけど、ぼくは、この3年間でそうじゃないことに気づきました。

あるとき、ぼくの家に電話がかかってきました。「あんたの家、同和地区だろ」っていうことでした。実際にはもっと差別的な言葉を言われたのですが、そのたった一言の電話で、ぼくの家族は無茶苦茶^{むちゃくちや}つらい思いをしました。けど、これが部落差別なんだって実感することができました。あのときの自分の気持ちっていうのは、無茶苦茶揺れ動いていました。まわりにいる人間が、ものすごくこわいものに見えました。差別のことなんか考えなくなかったし、考えない方が楽に生活できるような気がしました。けど、こんな差別なくしていかないかんって思えたのは、部落差別について、一緒に考えていける仲間がいたからだと思います。みんなで、その電話について話している中で、同じ人間を下に見てしまう、下に置こうとする気持ち、差別することって、ものすごくみじめでつらいことに気づけました。

ぼくの父と母が結婚するときに、父が部落の人間だからということで、母の両親が結婚差別をしました。母は自分の父と母に一度勘当^{かんどう}されてしまったけど、ぼくが生まれてから母の両親は、結婚を認めてくれたそうです。今では、母の両親も父の良ところがわかって、お互いを尊敬し合えるくらい仲がいいです。一緒にお酒を飲んだり、ご飯を食べたりするときも、みんなものすごくいい顔をしています。部落差別がなかったら、部落差別やしなかったら、こんなにお互い一生心に傷がつくような思いをしなくてすむのになーとか思ったりします。

だけど、人間て弱いから、差別するような汚い気持ちが働いてしまいます。自分さえよかったらいいとか思う気持ちは、誰もが持っていると思いますが、こういう気持ちが差別する気持ちにつながっていくような気がします。

ネットで放送されます。

この番組は、「差別は、人の心から生まれている」をテーマに、なぜ、差別はなくな
ないのか、差別をなくすためにどうしたらよいのかを視聴者とともに考えられるように制
作されています。「いじめはいけない」、「差別はしてはいけない」、「人権は守られな
ければならない」ということは、多くの人が知っています。しかし、差別はなかなかく
なりません。それは、差別をしている人は、自分の何気ない言動が人を傷つけているとい
うことに気がついていないからなのではないでしょうか。

番組では、私たちの身近で起きているさまざまな人権の問題のうち、特に、いじめ問題、
病気への偏見、女性差別、障害者への偏見、部落問題、外国人差別といったことにスポッ
トをあて、人権の問題を

「現在」……現在、どのような差別があるのか

「過去」……どのような経緯で差別は生まれたのか

また、差別解消のためにどのような努力がされてきたのか

「未来」……差別をなくすために人はどのようになすべきか
の側面から捉える内容となっています。

番組を通じて、自分は差別をしていないと思っている人でさえも、知らない間に差別を
する側にまわっているかもしれないことに気づいてもらい、人権を守ることの尊さ、大切
さを視聴者の心に訴えかけていくような内容となっています。

差別の解消に向けて、できること。それはまず、私たちの心のあり方を見直してみるこ
とかもしれません。この機会に、家庭で、職場で、学校で、友達と……もう一度、人権に
ついて考えてみましょう！

なお当日見逃した人は、吉成まで申し出てください。録画ビデオをお貸しします。（「は
じけた家族」の著者和田武広さんも登場しますよ）

★ ★ ★ ★ ★

12月18日(水) 三者面談

20日(金) 学習会クリスマス会(16:00～19:30：南公会堂)

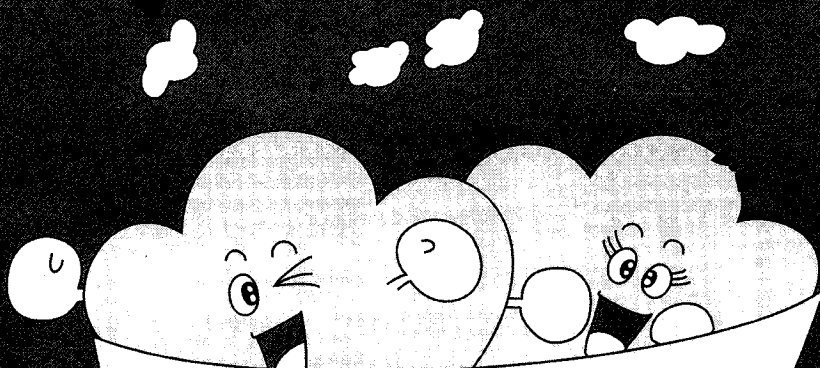
21日(土) 終業式

22日(日)～1月7日(火) 冬休み

1月8日(水) 始業式

やまびこ & コンサート

LOVE・優・生きる
第14回



奏でよう心の歌

と き：1996年12月22日(日) 午後1時開場

ところ：徳島市文化センター 1時30分開演

《主 催》

第14回やまびこコンサート実行委員会
徳 島 県 ボ ラ ン テ ィ ア 協 議 会

《問い合わせ》

徳島県ボランティア協議会 ☎0886(25)3362

やまびこコンサート実行委員長 中小路あゆみ ☎0886(69)3928

手話通訳・点字パンフ有り

〈後 援〉

徳島県、徳島県芸術祭執行委員会、徳島県社会福祉協議会、徳島市、徳島市教育委員会、徳島市社会福祉協議会、NHK徳島放送局、四国放送、徳島新聞社、朝日新聞社徳島支局、読売新聞社徳島支局、毎日新聞社徳島支局、徳島県聴覚障害者福祉協会、あわわ、アーサ、エフエム徳島、ケーブルテレビ徳島、エフエムびざん、まちかどプレス

徳島県芸術祭協賛